

つくってみよう！ オリジナル地図

子どもがつくった地図をどう評価するか

奈良教育大学 教授 岩本 廣美

社会科や総合学習、校外学習などのなかで子どもが地図づくりの活動を展開する場合、指導のねらいに沿って評価を行うことが必要です。また、作成した子どもを励ましてさらに高みをめざす意欲をもたせることが望まれます。「上手にできたね。」とほめるだけでなく、具体的にどういう点がどのように上手であったのか、改善の余地はどこにあるのか、といった評価を子どもに示すことが大切です。ここでは、地図づくりの段階を追いながらこうした評価の観点について具体的事例をもとに述べます。

テーマは適切か

地図づくりの活動でもっとも大切なことはテーマ設定です。子ども自身が考えたテーマに沿って地図づくりを進める場合、地図ができあがったときに、まずは、テーマ設定が適切であったことを評価することが大切です。テーマと地図の内容が一致しているかどうかの評価の観点です。

図1の例で見ると、地図のテーマは「ほくの町の地いきたんけんマップ」ですが、この文言は調査活動について表記したものです。その意味ではよいテーマであると評価できます。しかし、内容はおもに地域の主要な地物や土地利用のようすですので、指導者は、副題をつけることによってさらに内

容が明確になるよう助言するべきでしょう。例えば調べた地域の地名や「土地の使われ方」といった文言を副題に付すとよいでしょう。

図2「神楽地区の照度調査マップ～この街灯何ルクス（LX）？～」の例では、テーマと内容が一致しており、テーマ設定はきわめて適切であったといえましょう。

地図の骨組みは適切か

地図づくりは、テーマにみあった内容を表現する前に、地図の骨組みとなる部分をつくる段階があります。一般的には、地図に表す地域を把握するうえで重要な鉄道、道路、川などを描くことによって骨組みをつくります。この部分が適切にできたかどうかは評価にあたってのポイントのひとつになります。

図1の例では、国道9号と鉄道の山陰本線および鉄道に沿った道路といった交通幹線を



図1 ほくの町の地いきたんけんマップ 鳥取市立湖山西小学校3年 筒井友隆

描き、次にそのほかの道路を描いて、地図の骨組みをつくったことがわかります。「日本一大きな池」である湖山池（こやまいけ）も、骨組みを構成する要素になります。図1は、この骨組みづくりがきわめて適切になされた例であると評価できます。地図の上が北であることを示す方位記号の記載がある点も見逃せません。

地図をわかりやすくするためには、こうした骨組みづくりと並んで、地域においてめだつ建物などの地物を描いておくことが大切です。図1では、これらを写真で示していることが評価できる点です。図2の例では、骨組みとなる道路は適切に描かれていて評価できますが、川の描き方があいまいな点や、大規模な地物があまりめだたず、描き方に改善の余地が残りました。

調べた結果の表し方は適切か

テーマに沿って調べた結果を適切に表現できたかどうかは、地図づくりの最大の評価ポイントです。とくに、客観的に表現されているかどうか問題になります。

図2の例は、二つの点で客観性が確保されていることが高く評価できます。ひとつは、街灯の位置をひとつひとつ地図上に表した点です。街灯は、誰が調べても事象の存在を確実に個々に調べることのできる素材ですが、図2では調べた地域のすべての街灯の位置を地図上で示す努力をしています。もうひとつは、明るいかどうかの主観的な判断になる場合もあるため、照度（ルクス）という基準を設けて調査を実施し、地図上で色分けによって示したことです。わたしたちの身のまわり

* 作成者の学年は、作成時のものです。



図2 神楽地区の照度調査マップ~この街灯何ルクス(LX)?~
旭川市立神楽小学校5年 仲俣亮佑

には、音が大きいか小さいかなどのように、客観的に調べるためには基準を設けるべき素材がありますが、図2はこの点でよいお手本になりそうです。

凡例を確実につくることも客観性を確保するうえで、重要です。凡例は地図上の表現と合致していなければなりません。その点では、図1、2ともに、凡例が的確に作成されており、評価できます。

客観的かどうかとは異なる観点として、地図の見映えの問題があります。線の描き方、色の塗り方などは、見たときの印象に大きく影響しますので、観点として無視はできません。しかし、こうした地図の美的側面、技術的巧拙については、付随的な観点にとどめ、客観性を優先した評価にすべきでしょう。

子どもが精一杯の努力を傾けてつくった地図には、必ず何かしらの評価できる点があります。指導者は、子どもが努力した点を的確に見つけ、子どもの意欲向上につながるような評価を心がけていきたいものです。本稿が、そのための参考になれば幸いです。